

授業科目	* 診療関連技術論演習				単位	1		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11206J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	隅田 由加里、小田 日出子、金山 正子、石井 奈央							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>人間は疾病の発症や障害によって様々な診療(検査・処置・治療)を受けなくてはならない。これらの診療は患者の健康の回復・増進のために必須な医療の過程であるが、同時に危険を伴う医療行為でもある。よって看護職者は、「診療の補助」として行う看護技術が安全・安楽に提供できるよう、科学的根拠と医療安全の視点を踏まえて、必要な基礎的な知識を深め、正確な技術習得に努めなければならない。</p> <p>授業は診療関連技術項目(「呼吸を楽にする技術」「体温を調節する技術」「検査を安全に行う技術」「与薬・輸血を安全に行う技術」「皮膚・創傷を管理する技術」)別に講義・演習を実施する。</p> <p>担当者は、実務家教員として地域における中核的基幹病院で多種多様な診療関連技術を、様々な状況にある患者に提供してきた経験をもつ。診療関連技術は医療行為の一部であり、医療事故にもつながる侵襲のある看護技術であることを念頭におき、まずは講義によって、基礎的知識(目的、根拠、留意点等)を深める。その後、臨床現場で実際に使用されている器機等を活用し、演習記録を軸に「実践する」「振り返る」を通して基礎的技術の習得を目指す。また同時に厚生労働省等が発行する「医療安全情報」等を活用し、具体的な事例を提示し教授することで、学修者の医療安全の意識向上にも努める。</p> <p>なお、本授業は感染防止対策を徹底しながら対面授業を実施し、当該授業の目標達成を目指す。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療の補助に伴う看護援助技術が、安全かつ正確に実践できるための必要な基礎的知識を修得することができる。</li> <li>2. 健康上の課題を改善するため、情報や知識を活用し、論理的に患者の状態に最も適した診療の補助に伴う看護援助技術を思考・判断できる。</li> <li>3. 診療の補助に伴う看護援助技術を、安全かつ正確に実践する看護実践者としての責任を自覚し、受講・演習を行うにあたっての規律を遵守してグループ活動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>4. 安全かつ正確に診療の補助に伴う看護援助技術が実践できるよう、根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	0	0	10	30	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	50		0		10	0	60	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10		0		0	0	10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)			0			5	5	
態度(DP4-2)			0		0	25	25	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>1. 診療の補助に伴う看護援助技術が、安全かつ正確に実践できるための必要な基礎的知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を論理的に記述することができる。</p> <p>2. 健康上の課題を改善するため、情報や知識を活用し、科学的根拠に基づいて論理的に患者の状態に最も適した診療の補助に伴う看護援助技術を選択することができる。</p> <p>3. 診療の補助に伴う看護援助技術を、安全かつ正確に実践する看護実践者としての責任を自覚し、受講・演習を行うにあたっての規律を遵守して、リーダーシップを図りグループ活動に積極的に取り組むことができる。</p> <p>4. 安全かつ正確に診療の補助に伴う看護援助技術が実践できるよう、根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。</p> <p>1) 実施前・実施中・実施後に異常の早期発見と評価に必要な観察ができる。</p> <p>2) 準備と片付けが確実にできる。</p> <p>3) 安全と正確さを考慮し、医療安全対策を遵守した看護技術が実施できる。</p> <p>4) 実施した看護技術を根拠に基づいて自己評価できる。</p>	<p>1. 診療の補助に伴う看護援助技術が、安全に実践できるための必要な基礎的知識(意義・目的、適応、禁忌、留意点、方法、観察項目)を説明することができる。</p> <p>2. 健康上の課題を改善するため、情報や知識を活用し、科学的根拠に基づいて患者の状態に即した診療の補助に伴う看護援助技術を考えることができる。</p> <p>3. 診療の補助に伴う看護援助技術を、安全に実践する看護実践者としての責任を自覚し、受講・演習を行うにあたっての規律を遵守して、グループ活動に参加することができる。</p> <p>4. 安全に診療の補助に伴う看護援助技術を実践しようとする姿勢を身につけている。</p> <p>1) 実施前・実施中・実施後に観察ができる。</p> <p>2) 準備と片付けができる。</p> <p>3) 安全に注意して看護技術が実施できる。</p> <p>4) 実施した看護技術を振り返ることができる。</p>
---	---

## 授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p><b>【体温を調節する技術】</b></p> <p>* 以下を2コマで行う。 (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス</li> <li>・体温を調節する技術の基礎的知識(テキストは第5章: 苦痛の緩和・安楽確保の技術: 燂法)</li> </ul> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷 / 温燂法</li> </ul>	<p>* 本授業は COVID-19 の感染予防対策を徹底して対面授業形式で、講義のあと演習を実施する。</p> <p>* 学生はマスクを常に装着し、演習時はフェイスシールドも装着する。</p> <p>* 演習は3密が発生しないよう、クラス別など人数を制限し分散行う予定である。</p> <p>* 講義は、一定の間隔が確保できるよう、指定された席で受講する。</p> <p>・シラバスを用いて科目についてのオリエンテーションを実施する。</p> <p>・講義に必要な資料は事前にクラスルームにアップするか当日配布する。</p> <p>・授業はスライドと動画を活用するが、記述ができるよ</p>	<p><b>【予習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要時予習課題に取り組む</li> <li>2. 該当する看護形態機能学の復習を行う。</li> <li>3. テキストの該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめる</li> <li>4. クラスルームにアップされた動画を視聴し看護技術のイメージをつける</li> </ol> <p><b>【復習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本日の講義に該当する部分の復習をテキスト、授業資料、動画を活用して行う。</li> <li>2. 演習記録をまとめる。</li> <li>3. 提示された課題をまとめる。</li> <li>4. 該当分野の国家試験過去問題を活用して理解する。</li> </ol>	<b>【予習・復習】90分</b>

		うノートを準備しておく。		
2	<p>【呼吸を楽にする技術】</p> <p>* 以下を2コマで行う。</p> <p>(講義: 隅田由加里)</p> <p>講義:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸を楽にする技術の基礎的知識(テキストは第7章: 呼吸・循環を整える技術)</li> </ul> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素マスク、鼻カニューレを使用した酸素吸入療法の実際</li> <li>・口腔・鼻腔内吸引</li> </ul>	体温を調整する技術に記載した内容と同様の方法で実施する	体温を調節する技術に記載した内容と同様の予習・復習を行う	同上
3	<p>【皮膚・創傷を管理する技術】</p> <p>* 以下を2コマで行う。</p> <p>(講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚・創傷を管理する技術の基礎的知識(テキストは第8章: 創傷管理技術)</li> </ul> <p>演習:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包帯法(巻軸包帯と三角巾)</li> </ul>	体温を調整する技術に記載した内容と同様の方法で実施する	体温を調節する技術に記載した内容と同様の予習・復習を行う	同上
4	<p>【検査を安全に行う技術】</p> <p>* 以下を2コマで行う。</p> <p>(講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査を安全に行う技術の基礎的知識(テキストは第11章: 症状・生態機能管理技術: 静脈血採血)</li> </ul> <p>演習:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈血採血</li> </ul>	体温を調整する技術に記載した内容と同様の方法で実施する	体温を調節する技術に記載した内容と同様の予習・復習を行う	同上
5	<p>【与薬・輸血を安全に行う技術①】</p> <p>* 以下を2コマで行う。</p> <p>(講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科教員)</p> <p>講義</p> <p>与薬・輸血を安全に行う技術の基礎的知識(テキストは第9章: 与薬の技術)</p>	体温を調整する技術に記載した内容と同様の方法で実施する(講義のみの予定)	<p>【予習】</p> <p>* 授業は非常に広範囲になりますので、予習は必ず行いましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学で学習した「薬物動態」を振り返り理解を深めておきましょう。</li> <li>2. 消化器系、皮膚・粘膜系の看護形態機能学の復習を行いましょう。</li> <li>3. 与薬方法にはどのような方法があるのか、テキストの該当箇所を読み自己学習ノートを作成しまとめておきましょう</li> <li>4. クラスルームにアップされた動画を視聴し看護技術のイメージをつけましょう</li> </ol> <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本日の講義に該当する部分の復習をテキスト、授業資料、動画を活用して行ってください。</li> <li>2. 与薬・輸血は看護師国家試験にもよく出題される領域ですので、過去問題を活用し</li> </ol>	同上

			て留意点を理解していきましょ う。	
6	<p>【与薬・輸血を安全に行う技術②】</p> <p>* 以下を2コマで行う。 (講義: 隅田由加里 / 演習: 隅田由加里、看護学科助教員)</p> <p>演習:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンプルカットと薬剤吸引</li> <li>・筋肉内注射</li> <li>・点滴ルートセッティングと滴下調整</li> </ul>	体温を調整する技術に記載した内容と同様の方法で実施する	体温を調節する技術に記載した内容と同様の予習・復習を行う	同上
7	<p>【診療関連技術論演習: 実技試験】</p> <p>* 以下を2コマで実施する (基礎看護学担当教員)</p> <p>既習の知識・技術を活用し、事例患者の現状に適した診療関連技術を考え実践する(詳細は授業内で提示する)</p>	<p>* 事前に配布し・説明した実技試験のオリエンテーション用紙に則り、科目履修者全員を対象に実技試験を実施する。</p> <p>* 実技試験実施時期に関しては授業ガイダンス時に説明する</p>	<p>【事前の「自主演習」の進め方】</p> <p>1. 実技試験前に配布した実技試験課題等を参考に、また、自主練習に関する諸注意をよく理解したうえで、自主的・積極的に診療関連技術の習得に向けた練習に、計画的に取り組む習熟度を上げる努力を行う。</p> <p>2. 事前に提示した評価の視点を参考に繰り返し練習する。</p> <p>3. 自ら進んで教員に助言を求める。</p> <p>【実技試験終了後の課題】</p> <p>1. 技術評価表の評価の視点に沿って、自ら実施した技術を客観的に評価する。</p>	同上
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	この単元は、医師の代行役割である診療の補助に該当する科目です。このため検査・処置・治療のため、患者の体内に針やカテーテルを挿入し、さらに薬物や酸素を投与するなど侵襲を伴う看護技術となります。これらを安全かつ正確に実践するためには、まずは「看護形態機能学」の知識が必須となりますので、1年次に学修した既習の知識の復習を行ってください。また疾病学各論、薬理学、看護のための臨床検査などの単元と関連させながら学修を深めてください。さらに医療安全への対策も必須となりますので、各診療技術に関する事故防止対策や感染防止対策の学びも深めてください。そして日頃から医療に関するニュースやトピックスには関心をもち続け読書し、医療や看護の課題理解を深めていきましょう。			
テキスト	・「系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」(医学書院)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術(メディカ出版)</li> <li>・基礎看護技術(医学書院)</li> <li>・深井喜代子編著:基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる(照林社)</li> <li>・深井喜代子監修:ケア技術のエビデンス(1)(2)実践へのフィードバックで活かす(へるす出版)</li> <li>・藤本真記子ら監修:看護技術がみえる① 基礎看護技術(メディックメディア)</li> <li>・佐藤久美ら監修:看護技術がみえる② 臨床看護技術(メディックメディア)</li> <li>・山口瑞穂子編著:看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術編(サイオ出版)</li> <li>・任和子ら編集:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版(医学書院)</li> </ul>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中、臨床現場では看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。しかし皆さんのような初学者の方が、初めてこのような診療関連技術を演習するのはとても難しく、また怖さを感じると思います。このためどうしても、診療関連技術論演習の学修を進めるにあたっては、技術手順の習得に意識が集中しがちです。しかし診療関連技術を提供するにあたって最も大切なことは、患者の安全を守ることです。この患者の安全を死守するためには、手順だけでなく、「なぜそれを行うのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することが必要です。なぜならこのような知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれるからです。まずは「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」等の疑問を常にもち、その疑問を解決することを学修とし、学びを深めていってください。			
達成度評価に関するコメント	<p>本授業の課題達成度は、筆記試験(60%)、レポート外の提出物(学習ポートフォリオ・提出物など10%)、「その他(30%)」に位置づけた実技試験(25%)と授業貢献度(5%)により総合的に評価します。</p> <p>レポート以外の提出(10%)で総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【知識・理解】の看護学科 DP1-2)「看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」は、筆記試験(50%)、レポート外の提出物(10%)の内容から総合的に評価します。</li> <li>2. 【思考・判断】の看護学科 DP2-1)「健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる」は、筆記試験(10%)の内容から評価します。</li> </ol>			

	<p>3. 【態度】の看護学科 DP4-1)「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる」は、その他(授業貢献度 5%)から評価します。</p> <p>4. 【態度】DP4-2)「根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている」は、その他(実技試験 25%)から評価します。</p>
--	--